

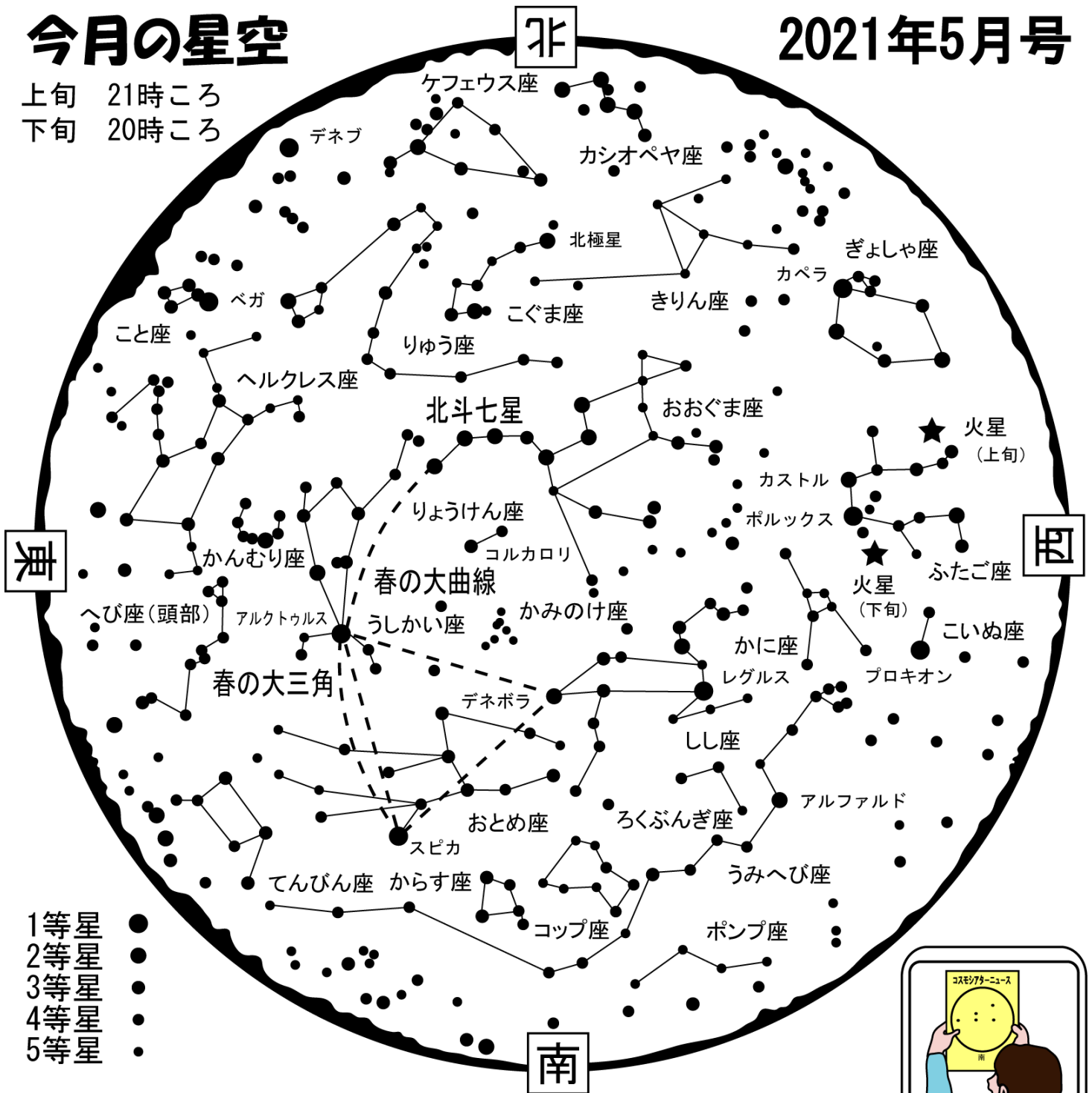
コスモシアターニュース

今月の星空

北

2021年5月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●

今月の惑星の動き

水星：夕方、西のたいへん低い空に見えます。明るさは-1~1等星です。
 金星：下旬の夕方、西のたいへん低い空に見えます。明るさは-4等星です。
 火星：夕方、西の空に見えます。明るさは1.5等星です。
 木星：明け方、南東の空に見えます。明るさは-2等星です。
 土星：明け方、南の空に見えます。明るさは0.5等星です。

今月の月の満ち欠け

下弦：4日(火) 新月：12日(水) 上弦：20日(木) 満月：26日(水)



4日(火)、明け方、南東の空で月と土星が並んで輝く

4日(火)の明け方午前4時ころ、南東の空に、細い月が輝きます。この月の上側に輝くのが、土星です。土星は1等星ですので、肉眼でもよく見えるでしょう。

5日(水)、明け方、南東の空で月と木星が並んで輝く

5日(水)明け方午前4時ころ、南東の空に、細い月が輝きます。この月の上側に輝くのが、木星です。木星は-2等星で、土星より明るく輝きます。というより、この時間に見える星の中で一番明るく輝くので、たいへんめにつく存在となります。前日の土星との接近の翌日になりますので、連日の月と惑星の接近になります。

6日(木)、みずがめ座流星群が極大

彗星から出るチリが燃えて光って見える群流星は、地上から見ると、ある地点(放射点)から全天に流れていくように見えます。この放射点がある場所の星座の名前をとり、何々座流星群と呼びます。

さて、今月の6日(火)明け方に、みずがめ座流星群が、極大(一番多くなる)となります。みずがめ座流星群は、特に東の空に多く現れます。放射点は、真夜中すぎに昇り、明け方にかけてだんだん高くなります。よって、放射点の高くなる明け方前の午前2時ころから午前4時ころに、流星を見ることができます。なお、6日の明け方は、下弦の月が輝き、あまりいい条件ではありません。このため、実際見られる流星は、極大のころ、松山市内で、1時間あたり数個程度でしょう。また、街明かりのない条件が良い所では、1時間に5個くらいの流星が見えるかもしれません。なお、この前の、4日と5日の明け方も同じくらいの流星が見られますので、4日から6日の晴れた時に見るといいでしょう。

14日(金)、西の空で、月と水星が並んで輝く

空が暗くなる20時ころ、西の低い空に三日月が輝いています。この三日月の右下に輝くのが、水星です。高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気にも恵まれれば簡単に見つかるはずです。ただし、見晴らしがいい所でないといけないので、西の地平線方向に障害物がないところで観察してください。またすぐに沈むので20時30分ころまでに観察してください。

16日(日)、西の空で、月と火星が並んで輝く

空が暗くなる20時ころ、西の空で月と火星が並んで輝きます。火星の場所は、月のすぐ下側です。火星はオレンジ色の明るい星なのですぐに分かるはず。また、水星との接近時に比べ高さが高いので、21時ころまでよく見えるでしょう。

26日(水)、スーパームーンの皆既月食が見られる

26日(水)の夜、スーパームーンの皆既月食が見られます。今回は、月食が始まり欠けた状態で月が昇ってきます。ただし昇ったところは高さが低い見えないかもしれません。そして、皆既月食が始まるのが20時10分ころから30分ころまでです。このころは、南東の低い空で赤銅色に輝く月が見えるでしょう。この後、月の明るい部分がだんだんと増えていきます。月食の終了は22時前になります。今回の条件から見ると、月食の後半がよくなるので、20時以降の皆既月食になったころからが見やすくなります。スーパームーンは、1年でいちばん大きく見える満月です。いつもより、さらに大きな月に見えるでしょう。

春の星を見つけよう

春の夜空には、「春の大三角」と呼ばれる大きな三角の形に並ぶ星があります。その中で最も明るい星が、「うしかい座」の「アルクトゥルス」です。

「アルクトゥルス」は、21時ころですと、東の空高く見えるいちばん明るい星です。この星を目印に、南の空を眺めると、右下に「おとめ座」の「スピカ」、右側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

右の図は、21時ころ南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。またちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることとなります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分りにくいこともあります。

